



さい帯血バンク NOW

第65号

5月15日発行

日本さい帯血バンクネットワーク

発行者：加藤俊一（会長）

〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社西館5階

TEL 03-5777-2429 FAX 03-5777-2417 <http://www.j-cord.gr.jp/>

ネットワーク新役員体制発足

日本さい帯血バンクネットワークの通常総会が3月25日に開催され、新年度の予算、事業計画などが審議・承認されるとともに、役員の新選が行われ、会長には東海大学さい帯血バンク代表の加藤俊一氏が選出され、新たな役員体制が発足しました。

日本さい帯血バンクネットワークの前役員・委員の任期が今年3月末で満了となり、4月からは新たな体制で臨むことになりました。会則で役員の新任期は2年ですが、再任は連続2期までという規定があります。中林正雄前会長をはじめほとんどの役員は4年前に選出されたため、今回は新たな人選が行われることになりました。

選任は総会で正会員の投票によって行われました。これまで歴代3人の会長はいずれも有識者の立場の正会員で

したが、第4代会長に選出された加藤俊一氏は、初めてのバンク関係者の会長となりました。さらに2人の副会長、加藤剛二氏（東海臍帯血バンク）と中島一格氏（日赤関東甲信越さい帯血バンク）もバンク代表者で、日本さい帯血バンクネットワークの役員構成も設立から13年を経て、バンク関係者がネットワークの運営を担う新たな局面を迎えました。

また、監事には陽田秀夫氏と横山荘司氏が選ばれました。総会では、事業

運営委員、事業評価委員、倫理委員の選任も行われました。新委員による最初の事業運営委員会が4月8日に開催され、互選によって委員長には副会長の加藤剛二氏が選任されました。

●新役員一覧

会長	加藤俊一（新任）
副会長	加藤剛二（新任）
副会長	中島一格（新任）
監事	陽田秀夫（新任）
監事	横山荘司（再任）

新会長就任の抱負

会長 加藤俊一



日本さい帯血バンクネットワークが設立されて13年目となりましたが、3月25日に開催した総会で新役員の新選が行われ、新体制が発足いたしました。役員一同、責任の重さを感じますとともに、多くの皆様のご協力をいただきながらわが国におけるさい帯血バンクとさい帯血移植のさらなる推進に全力を尽くしたいと考えております。

昨年度末には診療報酬の改正が行われて「臍帯血移植」の保険点数が大幅に増加することになり、その増点部分はさい帯血バンクに還元されることになりました。日本造血細胞移植学会を始めとする関連学会と本ネットワーク

関係者の皆様の絶大なるご努力のたまものと感謝申し上げます。

わが国におけるさい帯血バンク事業は「初期的な段階」を終えて本格的な発展の時期を迎えようとしています。今回、診療報酬からの収入が増加することにより、各さい帯血バンクの財政的な運営は好転することが期待できますが、各さい帯血バンクは品質向上と安全性の確保、そして安定的なさい帯血移植供給においてのさらなる努力を求められることとなります。

わが国における非血縁者間さい帯血移植は年々増加の一途をたどり、平成23年度は1106例で同時期の非血縁者間骨髄移植と肩を並べるようになっており、累積移植数も累計で8400例を超えています。このままのペースで推移すれば来年夏から秋にかけて1万例を突

破するものと予想されます。

このようにわが国ではさい帯血移植が多く実施され、世界全体の約3分の1を占めていることがWorld Marrow Donor Association (WMDA) により報告されています。わが国はその実績に応じた国際的な責任を果たすべき時期にきており、国際協力のあり方についても前向きな議論が必要であると思っております。

内外の問題が山積する中、多くの皆様と力を合わせてさい帯血移植を始めとする造血細胞移植を必要とする患者さんたちのためにより良いさい帯血バンクとするとともに、目的を同じくする骨髄バンクとも連携を深めながら、一元的な造血細胞バンクシステムの確立に向けて努力をしていきたいと思っております。



今年の全国大会は9月15日に 仙台で骨髄バンクと合同で

日本さい帯血バンクネットワークでは毎年秋に年次報告会を兼ねた「さい帯血バンク推進全国大会」を開催しています。今年は横浜で開催すべく事業運営委員会の承認を得て広報部会で準備を進めていましたが、3月半ばになって骨髄移植推進財団(骨髄バンク)から「骨髄バンクとさい帯血バンクの合同で開催してはどうか」の提案がありました。4月8日の事業運営委員会では、これを受けて合同開催とすることが決定しました。

今後、ネットワークと骨髄移植推進財団双方から委員を出し、実行委員会によって全国大会の企画内容等の検討

診療報酬の改定にともなう さい帯血バンク配分額決定

本誌前号『さい帯血バンクNOW』第64号(3月15日発行)では、今春の診療報酬改定で、さい帯血移植術が増点され、その増点分がすべてさい帯血バンクの収入になる予定であるとの速報記事を掲載しましたが、3月23日付で厚生労働省臓器移植対策室からの事務連絡「臍帯血移植術の診療報酬改定の取り扱いについて」が発出されました。その内容では「今回の診療報酬改定後の所定点数66,450点のうち40,800点をさい帯血バンクに配分する」ということになりました。これを受け、日本さい帯血バンクネットワークでは登録移植医療機関に向けて、その旨の文書を送付しました。

と準備が行われることになりました。りです。当日は終了後に懇親会(会費
なお、全国大会の日程と会場は次の通 制)も予定されています。

骨髄バンク・さい帯血バンク合同全国大会in仙台

日時: 2012年9月15日(土) 午後1時30分から

会場: 仙台市太白区文化センター

"元気になりました" 移植患者さんの手記大募集

本誌『さい帯血バンクNOW』では新しい企画として、さい帯血バンクを介してさい帯血移植を受けられ、元気になられた移植患者さんの手記を連載していこうと、準備を進めています。移植から1年程度以上経過して、健康を回復された患者さんは、その体験やメッセージを書いてみませんか。原稿は2000字程度にまとめ、写真やイラストなどとともにお願いします。投稿は郵送でもメールでもかまいません。また、いただいた原稿は本誌に掲載するほか、さい帯血バンクの広報活動で使わせていただくことがあります。どうぞふるって手記をお寄せください。

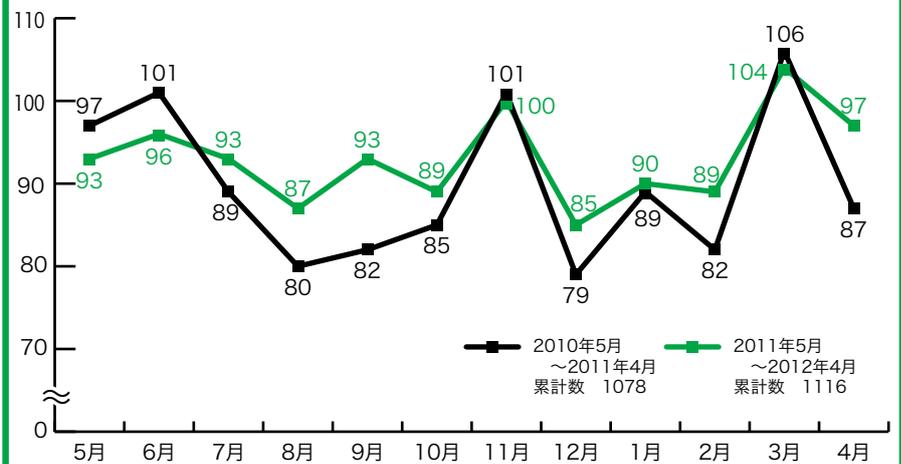
〈送付先〉

〒105-0012東京都港区芝大門1-1-3日本赤十字社西館5階

日本さい帯血バンクネットワーク「さい帯血バンクNOW」編集部宛
network-jimukyoku@j-cord.gr.jp

非血縁間さい帯血移植状況(2012年5月1日現在の速報値)

移植数(累計) **8454** 公開数 **28871**



※複数さい帯血移植数を換算しています。



すこやかに、幸せに。
明日への夢、描きたい。

人から人へ、心から心へ、医療という名のヒューマンなコミュニケーションを広げたい。真の健康を守り、幸福な社会を築くために、優れた医療器具を広くおとどけしているニプロ。

私たちニプロはさい帯血を採取保存する技術でさい帯血バンクを応援致します。





さい帯血バンク *our staffs!* うちのスタッフ

⑤北海道さい帯血バンク

北海道さい帯血バンクは、1997年に北海道赤十字血液センター内にプロジェクトチームを発足させたことから始まり、1998年からは北海道臍帯血バンクとして独立して運営を行ってきました。1998年11月に第1例目の移植が行われ、約15年間で800例以上のさい帯血を移植医療機関に提供しています。日本赤十字社は、今年4月から4カ所のさい帯血バンクについて、直轄のさい帯血バンクとして事業を引き継いだため、当バンクも「日本赤十字社北海道さい帯血バンク」と名称を改め、再スタートを切りました。

さい帯血バンクには血液センターの多くの職員が関わっていますが、今回はバンクの顔となる所長、部長と調製保存スタッフを中心に紹介します。

まず初めに高本所長、以前は東海臍帯血バンクの理事をされていましたが、今年度から北海道さい帯血バンクの所長に就任致しました。本間製剤部長はさい帯血の調製保存部門の責任者で、現場スタッフのお目付け役です。佐藤品質部長は当バンクの品質部門の責任者であると共に、今年度からさい帯血バンクネットワークの事業評価委員として各地のバンクにお邪魔することになるものと思います。

メインスタッフについては当人のコメントも交えながらご紹介します。

●今年入社の方 酒井さん

一言のアドバイスも聞きもらすまいとメモ魔と化し、何度も見直し練習し、そしてまた観察…の繰り返しの日々。調製デビュー目指して特訓中です。

「4月から加わりました酒井です。札幌市出身です。今まで学んできたことを生かして頑張っていきたいと思っています。日々メンバーの皆さまから温かいご指導をいただきながら勉強しています。これまで先輩方が築いてこられた技術や知識をできるだけ早くに身につけて経験を積み重ね社会に貢献していきたいと思っています」

●昨年夏、仲間入りした成田さん

臨床検査技師でありながら他業種経験のあるマルチな彼女は、培ってきた経験をフルに生かして次々と仕事を覚え、窮地を救ってくれました。

「この仕事に就いて約8カ月の成田玲子です。よく働いてよく食べ、よく遊んでよく眠るがモットーで、休日には映画館をハシゴするインドア派です。身体や頭が凝り固まった時にはバレエのレッスンを受けに行っておくぐたりしています。この仕事は、まだまだ奮闘中の日々ですが、より良いさい帯血を提供できるよう技術や知識を身につけるに加えて、きずなちゃんの知名度を上げるのが目下の目標です」

●当コーナー北海道編担当の荒関です

「誰かのために」その提供者の想いを届けるバンクの仕事に責任と誇りを感じています。手作業が多い調製・保存作業は苦勞も多いのですが、担当者誰もが提供者と移植を待つ患者さんに心を寄せながら、スムーズにスマートに仕事を進められるようすることが、年長者の務めと心得、奔走しています。プライベートでは、年々「難あり」へと変化する体のあちらこちらをあの手の手で再生させることに生きがいを感じています。

●3人を率いる折原課長

複雑な事務作業を改善したいという部下の願いに書類作成のシステム化・入力作業の効率化で応えてくれたPC使いの名手です。またどんなに忙しい時でも仕事の手を休めて相談に応じてくれるため、課長を頼って訪れる人や電話が絶えず、なんとなくちょっとジェラシーも。

以上が現在のメンバーですが、これまで歴代スタッフ10名ほどが調製作業に携わり、累計で4200個以上のさい帯血を保存してきました。3月末、そこへ宮城からのさい帯血が加わりました。平成23年度末に役割を終えた宮城さい帯血バンクはその業務を北海道バンクに託すことになり、大切に保管してきたさい帯血はスタッフの入念な旅支度のもと北海道に送り出されました。船に揺られ翌日予定通り到着。すぐに管理状態がチェックされ、さい帯血保管場所へ。

今は手狭な場所で保存タンクがひしめいていますが、当バンクを擁する日本赤十字社北海道ブロック血液センターは新社屋の建設中で、来年夏の移転に向けて準備を進めています。設備・管理の整った新しい施設で「あとは北海道に任せたい」と安心していただけるよう大切に管理していきたいと思っています。



前列左から佐藤、高本、本間、後列は折原、荒関、成田、酒井



移植病院 訪問

①9 東京大学医学部附属病院

150年伝統の強さの秘訣

東京大学医学部附属病院は、わが国の医学医療を長きにわたり牽引している大学病院です。血液・腫瘍内科は無菌治療部と共同して、1995年から造血幹細胞移植（同種移植）を開始しています。現在までの同種移植総数は422件であり、その内さい帯血移植は31件です。また、小児科での総数は70件のうち、さい帯血は22件です。近年ではさい帯血移植が半数を占めています。質の高い治療の実践や研究開発だけではなく、患者・家族が安心して治療を受けることができる環境づくりを積極的に行っている状況を取材しました。

小児科でのサポート体制

血液疾患の治療は長期的な入院がどうしても必要になります。小児科では、入院している子どもたちや、付き添っているご家族が安心して入院生活を過ごすことができる環境が整っています。まずは院内学級（北養護学校こだま分教室）が整備され、無菌病棟入室後も継続して教育を受けることができる環境。次は、2008年に小児医療センターが設置され、小児を診るすべての科が協力して診療を受けることができる環境。さらに、2011年12月よりドナルド・マクドナルド・ハウス東大が隣接され、遠方から治療に来られる家族が看病に専念できる環境です。都内でもこれだけサポート体制が充実している病院は数が少ないのではないのでしょうか。患者さんご家族にとって、安心して治療に専念できる環境に感動しました。

さまざまな診療科との連携

血液疾患では遺伝子変異などの予後に起因する検査が多くあります。しかし、結果が出揃うまでに時間がかかってしまうのが現状ではないでしょうか。東大病院では、ほとんどの検査が院内で行われ、早期に確定診断をつけ治療方針をたてることのできる環境が整っています。また、心療内科との連携が確立しており、看護師や薬剤師も含め

たカンファレンスが週に1度開催され、患者さんのメンタルサポートの充実がうかがえます。さらに、慢性GVHD等の合併症がある場合は、多くの診療科でのフォローアップ体制が充実しています。

同種移植後の合併症で角膜移植が必要になった患者さんがいたそうです。患者家族にとっては、同一病院内で治療が継続できることは安心につながります。血液・腫瘍科の篠原先生と5階北病棟の間平看護師長さんは「(病棟が2つあるため)どちらに入院しても同じように医療や看護が提供できる体制づくりが今後の課題です」と話してくださいました。さまざまな診療科を含めた情報共有やよりよいものを目指す意気込みなど、垣根を越えた横のつながりが東大病院ならではの強みなの

ではと確信しました。

臨床研究も数多く行われており、施設の比較的小規模なものから、日本全国に及ぶ大規模なものなど、様々な規模・形態のものがあ、まさに大学病院ならではの取り組みです。近年では、特に高齢者の同種移植に取り組んでいることを教えていただきました。臨床と研究の両面により得られた成果から、血液疾患に対する診療の発展がますます期待されます。

■善意のお気持ちに感謝します■

兵庫県	井手 俊彦様	300,000円
東京都	公益財団法人 毎日新聞東京社会事業団様	200,000円
京都府	NPO法人ドリーム・トイ様	150,000円
東京都	キイロ株式会社様	100,000円
東京都	富士ゼロックスシステムサービスボランティア基金様	50,000円
東京都	富士ゼロックスシステムサービス株式会社様	50,000円
大阪府	福田 博行様	20,000円
東京都	江藤 栄様	10,000円
神奈川県	田中 栄一様	10,000円
千葉県	土屋 亨様	8,000円
埼玉県	大寺 信行様	6,000円
東京都	石川 恵子様	5,000円
東京都	松本 翔次郎様	5,000円
神奈川県	匿名希望	3,000円

〈寄付受け付け専用口座〉

●郵便局からの振り込み

00180-9-57390

●他の金融機関からの振り込み

金融機関名：ゆうちょ銀行

金融機関コード：9900

支店番号：019（銀行のATMから当ネットワークへ寄付金を送金する場合は支店名は『レイイチキュー』と入力してください。）

預金種目：当座

口座番号：0057390

口座名義：日本さい帯血バンクネットワーク



東京大学医学部附属病院